

ウポポイ
NATIONAL ANIM MUSEUM and PARK
民族共生象徴空間北海道の水辺の
観光情報サイトかわたび
ほっかいどう

令和3年7月21日

舞鶴遊水地を軸とした「タンチョウも住めるまちづくり」

の取組が『全建賞』を受賞しました！

～多様な主体の協働が地域の活性化に広がってきている点が評価されました～

長沼町舞鶴遊水地では、空知総合振興局管内で実に100年以上ぶりのタンチョウのヒナ誕生となった昨年度に続き今年度も無事にヒナが生まれ、すくすくと成長を続けているところですが、この度、舞鶴遊水地を軸とした「タンチョウも住めるまちづくり」の取組が評価され、長沼町および札幌開発建設部千歳川河川事務所が、一般社団法人全日本建設技術協会から【令和2年度全建賞】を受賞しましたので、お知らせします。

長沼町及び札幌開発建設部千歳川河川事務所では、「タンチョウも住めるまちづくり検討協議会」の一員として、「タンチョウの営巣」、「対流促進型の地域形成」、「地域経済の活性化」を目的とした様々な取り組みを進めています。

今般、本取り組みが評価され、令和2年度全建賞※（河川部門）を受賞しました。この度、一般社団法人全日本建設技術協会より受賞にあたって表彰状と盾の授与があったのでご紹介するものです。

※【全建賞とは】（一般社団法人 全日本建設技術協会WEBサイトより）

全建賞は、我が国の良質な社会資本整備の推進と建設技術の発展を促進するために設けられたものです。昭和28年（1953年）の全建賞創設以来、日本の社会経済活動を支える根幹的なインフラ整備や、その時々々の国民ニーズに沿った幾多の取り組みに受賞がなされてきました。

<https://www.zenken.com/hypusyou/hyousyou.html>

【問合せ先】国土交通省 北海道開発局 札幌開発建設部 千歳川河川事務所

副所長 吉野 敦久 （電話番号 0123-24-1114）

特定治水事業対策官 西村 弘之 （電話番号 0123-24-1114）



札幌開発建設部ホームページ <https://www.hkd.mlit.go.jp/sp/>

舞鶴遊水地を軸とした「タンチョウも住めるまちづくり」の取組が『全建賞』を受賞



『舞鶴遊水地を軸とした「タンチョウも住めるまちづくり」の取組』が令和2年度の河川部門の全建賞を受賞しました。本取組を協働で行ってきた長沼町と千歳川河川事務所があわせて表彰されたものです。

舞鶴遊水地では平成24年にタンチョウの飛来が確認され、平成26年に地元農家等有志により「舞鶴遊水地にタンチョウを呼び戻す会」が立ち上がり、平成28年9月に札幌開発建設部と長沼町が連携して「タンチョウも住めるまちづくり検討協議会」を立ち上げました。検討協議会の目的は、「タンチョウの営巣」「対流促進型の地域形成」「地域経済の活性化」であり、舞鶴遊水地においてタンチョウが営巣できる良好な環境を維持しつつ、タンチョウの飛来する舞鶴遊水地を活用し地域活性化等に繋げる取り組みを行っています。

評価された点

舞鶴遊水地を軸としたタンチョウ生育環境構築とタンチョウをシンボルとした農産物・観光・住民参加の促進の取組。絶滅危惧種のタンチョウの営巣を復活させ、さらにタンチョウをシンボルにまちづくりを進めてきただけでなく、多様な主体の協働による地域の活性化にも広がってきている点が評価されました。



長沼町長（左）と千歳川河川事務所長（右）



(令和2年9月撮影)

▶タンチョウをモチーフとした商品開発が行われ、15種類以上(令和2年12月時点)の商品が町内商店等で販売され、地域活性化に寄与しています

▶札幌市内の商業施設にブースを出展(令和元年度～2年度)し、本取組のPRや商品紹介・販売を実施しました

- ▶昨年100年以上ぶりに札幌圏での繁殖が確認されました
- ▶今年度もヒナが確認され、2年連続の繁殖に期待が高まっています



タンチョウの親子(令和3年5月撮影)



呼び戻す会による見回り活動

▶ヒナ誕生以降、来訪者は増加しており、観察マナー啓発・来訪者に対する説明等と併せて、タンチョウの生息状況の確認等が行われています



イベント出展の状況